

国立大学法人香川大学諮問会議による 評価報告書

令和 7 年 9 月

国立大学法人香川大学



目 次

1. はじめに	1
2. 諮問会議委員名簿	2
3. 項目別評価	3
4. 配付資料	8
(令和7年7月7日開催第4回国立大学法人香川大学諮問会議配布資料)	
5. 関係規程等	95

1. はじめに

香川大学では、第4期中期目標・中期計画期間における業務運営の改善及び効率化に関する項目への対応として、令和4年4月1日付で設置した諮問会議を通じて、第4期中期目標・中期計画の中でも、特に、「自己点検・評価」、「社会との共創」、「リカレント教育」、「ダイバーシティの推進」、「財務運営」の5項目を対象に、外部の有識者からの意見を踏まえ、外部の知見を法人経営に生かすこととしております。

今回の諮問会議では、各委員の皆様には、当該5項目について、達成状況や成果はもとより、本学の近況や今後の取組等を内容とする「自己点検結果」をもとに、本学の強みとして伸ばしていくべきことや本学に今後期待すること等について、様々な観点から貴重なご意見をいただきました。心から厚くお礼を申し上げます。

諮問会議の委員の皆様から頂戴いたしましたご意見等は、今後の法人経営に反映させ、新たな価値と魅力を創造して、地域から世界に発信していけるよう、第4期中期目標の実現に努めます。

国立大学法人香川大学長

上田 夏生

2. 諮問会議委員名簿

綾田 裕次郎 株式会社百十四銀行取締役会長

大西 秀人 高松市長

梶山 博司 徳島文理大学学長

西原 義一 香川県信用保証協会会長

藤岡 実佐子 帝國製薬株式会社代表取締役社長

淀谷 圭三郎 香川県教育委員会教育長

(令和7年9月現在、五十音順、敬称略)

3. 項目別評価

1) 教育研究活動等の自己点検・評価に関すること

優れている点	・希少糖の研究が大きく発展しており、それに伴い香川大学の知名度も着実に向上している。今後も、当該分野のさらなる発展が望まれる。
改善を要する点	・ 特になし
今後に期待する点	・がんゲノムプロファイリング検査の取り組みは、非常に意義深く注目すべきものである。一方で、「年間 150 件以上」という目標設定はやや高めであった可能性もあるが、令和 7 年度に向けて改善の取り組みが予定されており、今後の進展に期待が寄せられる。香川大学の特色ある取り組みの一つとして、今後の展開に期待したい。 ・デザイン思考教育というのは、香川大学が掲げている大きな特徴的な教育の柱である。目標値の達成に向けて、是非充実させていただきたい。

2) 社会との共創に関すること

2-1) 学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて

2-2) 地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて

2-3) SDGs に関する取り組みについて

優れている点	・ 特になし
改善を要する点	・ 特になし
今後に期待する点	・ 香川大学の卒業生が、県内により多く就職・定着できるよう、引き続き積極的な取組を期待したい。

3) リカレント教育に関すること

優れている点	・ 特になし
改善を要する点	・ 特になし
今後に期待する点	・ 今後は、自治体職員など幅広い層が受講できるよう、リカレント教育の門戸をさらに広げるとともに、より一層の周知徹底が望まれる。今後の拡充にも期待したい。 ・ 社会のニーズと大学のシーズが的確に合致しているかどうかは重要な視点であり、今後も社会の動向を的確に把握するため、現場に足を運び、企業や自治体などとの意見交換を重ねていくことを期待したい。

4) ダイバーシティ推進体制に関すること

優れている点	・ 特になし
改善を要する点	・ 特になし
今後に期待する点	・ 特になし

5) 外部資金の獲得状況に関すること

優れている点	・多くの補助金を獲得している点は、関連事業に対する的確な情報収集と迅速な対応の成果であり、高く評価する。
改善を要する点	・特になし
今後に期待する点	・特になし

第4回国立大学法人香川大学諮問会議

日時：令和7年7月7日(月)13:00～

場所：本部4階大会議室

(Teamsによる遠隔会議併用)

目 次



資料 1	外部評価の進め方について	1～4頁
審議資料 1	<u>教育研究活動等の自己点検・評価に関すること</u>	5～56頁
審議資料 2	<u>社会との共創に関すること</u>	57頁
審議資料 2－1	学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて . . .	58頁
審議資料 2－2	地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて .	59～60頁
審議資料 2－3	SDGsに関する取り組みについて	61～62頁
審議資料 3	<u>リカレント教育に関すること</u>	63～66頁
審議資料 4	<u>ダイバーシティ推進体制に関すること</u>	67～80頁
審議資料 5	<u>外部資金の獲得状況に関すること</u>	81～82頁
	＜諮問会議委員名簿、諮問会議規則＞	83～85頁

外部評価の進め方について



目的

本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果について学外者による検証を行う。

評価対象

別紙のとおり

評価方法

諮問会議委員による書面確認、諮問会議による役員等との意見交換を踏まえ、評価報告書を作成することにより行う。

評価手順

<①自己点検・評価書シートの確認>

- 「自己点検・評価書」等の内容を確認し、評価を行う。

<②諮問会議による本学役員等との意見交換>

- 諮問会議では、自己点検・評価書をもとに本学の近況について説明するとともに、本学の強みとして伸ばしていくべきことや、本学の目的・理念等に照らし、本学に今後期待すること等について意見交換を行う。
 - ・「優れている点」：本学の強みとして伸ばしていくべき事項
 - ・「改善を要する点」：本学の弱みとして改善すべき事項
 - ・「今後に期待する点」：本学の目的・理念等に照らし、本学に今後期待する事項

公表

<評価報告書の作成・公表>

- 諮問会議委員による評価結果や諮問会議での意見交換の内容等を踏まえ、事務局にて評価結果を取りまとめ、評価報告書の原案を作成し、諮問会議委員がこれを確認する。
- 諮問会議委員による内容確認を経て、評価報告書を完成させ、本学ホームページで公表する。

スケジュール

◆毎年度7月に開催

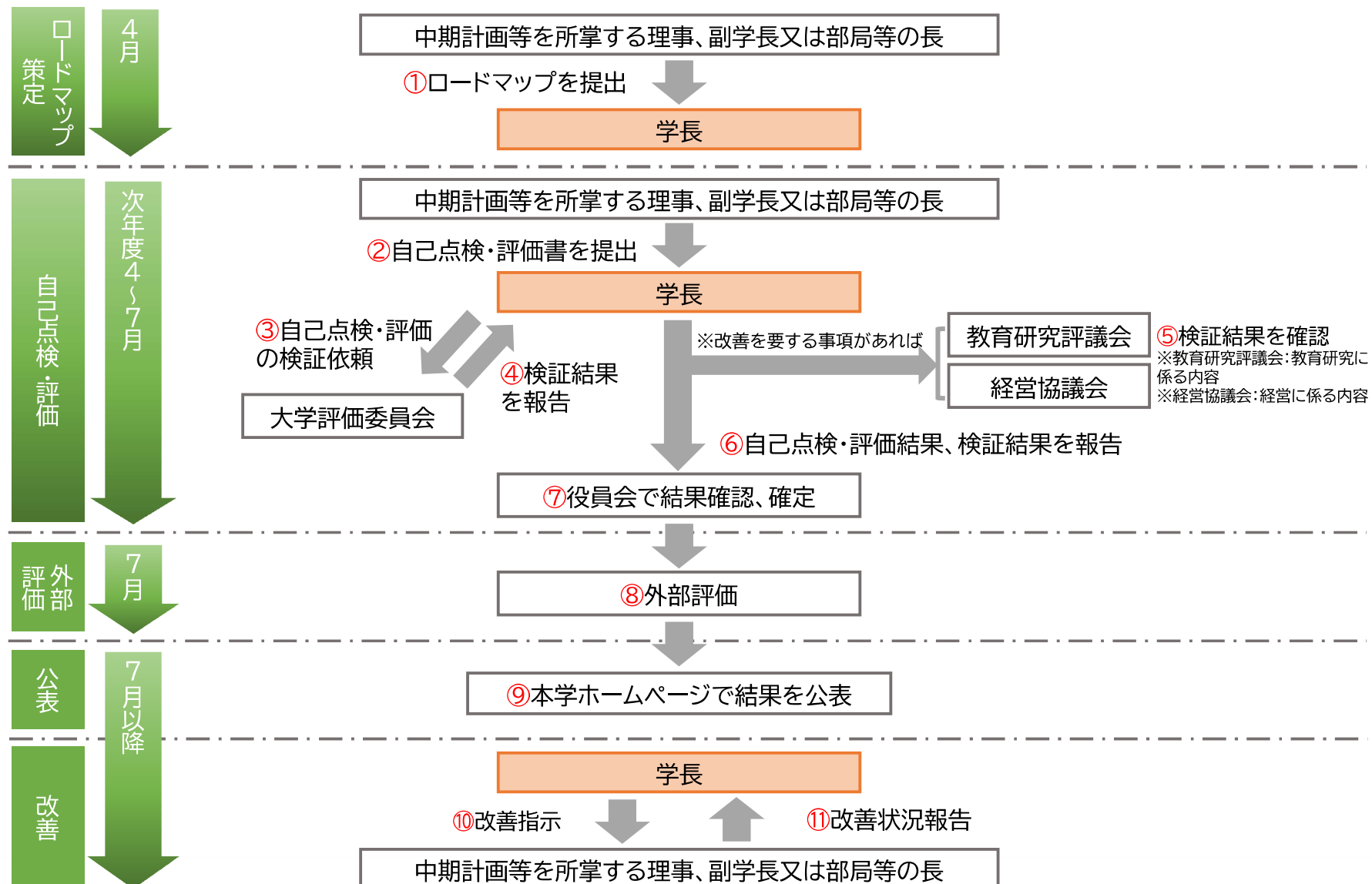
外部評価の評価対象について



中期目標	中期計画上の取組	実施体制	構成員	備考
②①業務運営	経営上の課題についての 諮問会議による意見 聴取	諮問会議	経営協議会の外部委 員＋地域の有識者	・①①①③②③を第4期中の経 営上の課題に設定し意見 聴取 ・②④の外部評価を実施
①社会との共 創	プログラム、プロジェクト、 SDGsの取組について の地域関係者による外 部評価			
①①リカレント	リカレント教育について の地域関係者による外 部評価			
①③ダイバーシ ティ	ダイバーシティの活動 計画についての外部有 識者による検証			
②③財務運営	外部資金の獲得状況に ついての外部有識者か ら意見聴取			
②④自己点検・ 評価	自己点検・評価に基づく 外部評価の実施			

(参考)中期目標・中期計画に係る自己点検・評価について

毎年度の流れ



評価事項：教育研究活動等の自己点検・評価に関すること[中期目標・中期計画②]

1. 令和6年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

【反映状況】 ○改善を要する点について	優れている点	・特になし
令和6年3月国立大学法人評価委員会「国立大学法人の第4期中期目標期間における国立大学法人評価委員会が行う業務実績評価実施方法の手引」の決定等を踏まえ、本学の評価区分等を整理・変更した。 前回の諮問会議でのご指摘及び文部科学省における具体的な評価基準の決定等を踏まえ、以下のように自己判定の判断基準等を整理・明確化した。 1つ以上の未達成評価指標があり、中期計画を十分に実施しているとはいえない場合は、「(Ⅱ)計画を十分に実施していない」以下の判定とし、計画達成に向けた取組を確実に実施・促進する。	改善を要する点	・目標に対してほぼ目標どおりに進んでいるというような取組についても、「計画を十分に実施している」という自己評価になっており、何となく全部「計画を十分に実施している」というような感じで、自己評価的には少し甘いのではないか。今後、また違う表現の仕方ができるのであれば、検討いただきたい。

< 中期計画の達成状況に係る自己判定区分等 >

変更前	変更後	
自己判定区分	自己判定区分	判断基準（目安）
(Ⅳ) 計画を上回って実施している	(Ⅳ) 計画を上回って実施している	すべての評価指標を達成しており、中期計画を実施し、優れた実績・成果を上げている場合
(Ⅲ) 計画を十分に実施している	(Ⅲ) 計画を実施している	すべての評価指標を達成しており、中期計画を実施している場合
(Ⅱ) 計画を十分には実施していない	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない	1つ以上の未達成評価指標があり、中期計画を十分に実施しているとはいえない場合
(Ⅰ) 計画を実施していない	(Ⅰ) 計画を実施していない	1つ以上の未達成評価指標があり、中期計画の実施が進んでいない場合

○今後に期待する点について

本学の研究成果について、各種メディアへの出演・情報提供や各種イベントでの展示など、情報発信に努めている。特に希少糖研究は全国放送番組への出演や大阪・関西万博での展示、海洋研究の藻場形成については地元メディアへの出演、県内自治体との連携を実施しており、各研究が順調に進んでいることから大型資金の獲得や受賞にもつながっている。

今後に期待する点

・研究の取組において、「計画を上回って実施している」という自己評価になっており、本当に素晴らしい様々な研究が進んでいるので、その実践している研究の状況について情報発信することを、強化いただきたい。

背景及び第4期中期計画

国立大学法人法の改正により、第4期中期目標期間から、年度計画の策定及び年度評価が廃止。
それに伴い、文部科学省から各法人の責任において、自己点検・評価の実施が求められた。



第4期中期計画・評価指標

②中期計画の進捗状況、評価指標の達成状況等について、客観的なデータに基づき自己点検・評価するとともに、外部の意見を取り入れた評価結果を公表する。

a. 中期計画の達成状況の自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果や改善状況等を公表する。

b. 外部評価を実施し、評価結果及び評価結果の反映状況等の公表を行う。

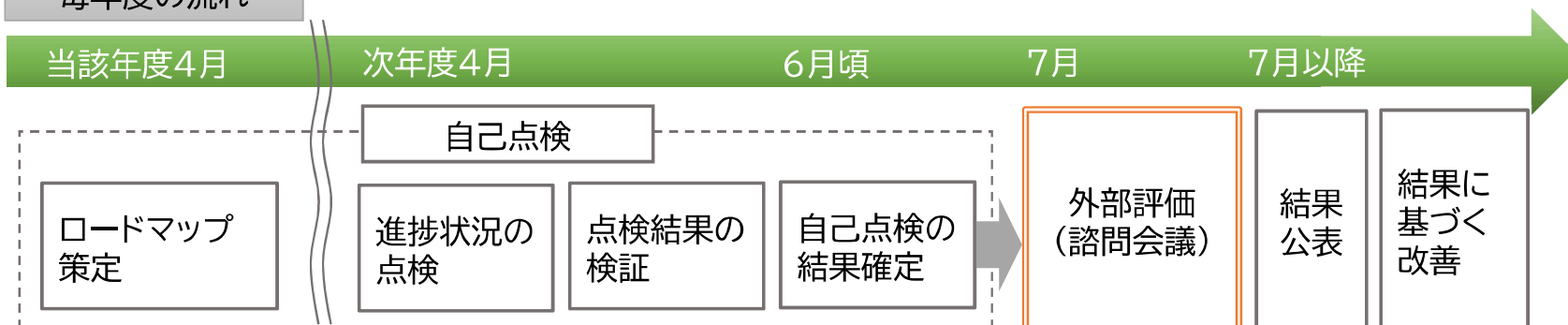
諮問事項及び実施年度

諮問事項：中期計画の進捗状況について

実施年度：1、2、3、5年目終了時

4、6年目終了時は、国立大学法人評価委員会による評価を受けるため、法人評価を受けない年度についても、第三者による評価を受けることで、中期計画の進捗状況の検証や改善をしっかりと行う。

毎年度の流れ



中期目標・中期計画に係る令和6年度自己点検・評価結果について

1. 自己点検・評価結果の検証結果

理事等から提出された自己点検・評価書に基づき、中期計画等に対する実施状況・成果や各評価指標に対する実績等を確認し、点検結果の検証を行った。

自己点検・評価が適切に実施されており、令和6年度自己判定が妥当である旨、確認した。

2. 令和6年度自己点検・評価結果（詳細な自己点検・評価結果等については別添のとおり）

中期目標		中期計画	評価指標	自己点検・評価結果
社会との共創	1 項目 〔①社会との共創〕	3 項目	8 指標	<u>中期計画達成状況</u> (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0 件 (Ⅲ) 計画を実施している : 3 件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0 件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0 件
教育	5 項目 〔⑪リカレント〕 〔⑬ダイバーシティ〕	9 項目	22 指標	<u>中期計画達成状況</u> (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 1 件 (19～20 頁…中期目標大綱番号⑦－1) (Ⅲ) 計画を実施している : 6 件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 2 件 (15～16 頁…中期目標大綱番号⑥－1) (17～18 頁…中期目標大綱番号⑥－2) (Ⅰ) 計画を実施していない : 0 件
研究	2 項目	4 項目	9 指標	<u>中期計画達成状況</u> (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0 件 (Ⅲ) 計画を実施している : 4 件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0 件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0 件
医療	1 項目	3 項目	8 指標	<u>中期計画達成状況</u> (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0 件 (Ⅲ) 計画を実施している : 2 件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 1 件 (42～43 頁…中期目標大綱番号⑳－2) (Ⅰ) 計画を実施していない : 0 件

中期目標		中期計画	評価指標	自己点検・評価結果
業務運営	5項目 (②業務運営) (③財務運営) (④自己点検評価)	8項目	17指標	<u>中期計画達成状況</u> (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0件 (Ⅲ) 計画を実施している : 7件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 1件 (54～55頁・・・中期目標大綱番号②-1) (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件

3. 令和5年度自己点検・評価において「(Ⅱ) 計画を十分には実施していない」と自己評価した取組に係る進捗状況等について

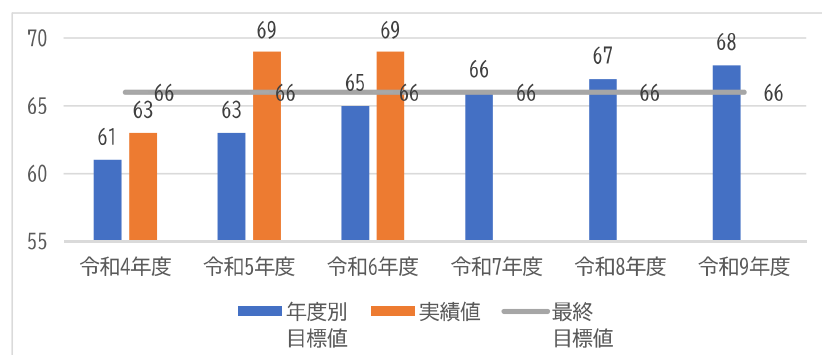
該当なし。令和5年度自己点検・評価においては、すべての取組で「(Ⅲ) 計画を実施している」以上の自己評価であった。

令和6年度 自己点検・評価結果について

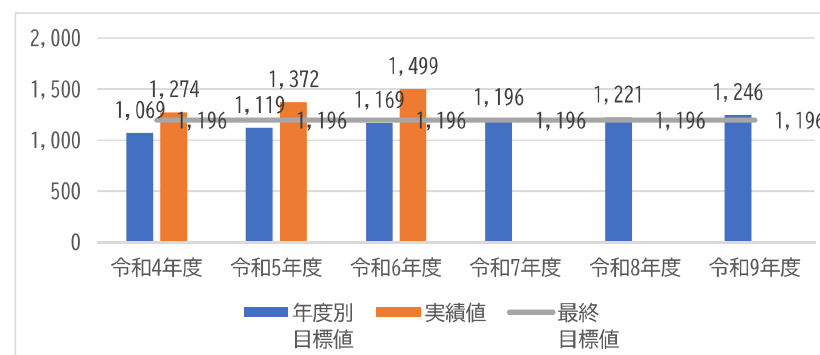
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの実施件数
(令和9年度における実施件数を令和3年度実績(60件)と比べて10%増加)



b. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの参加学生数 (令和9年度における参加学生数を令和3年度実績(1,040人)と比べて15%増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

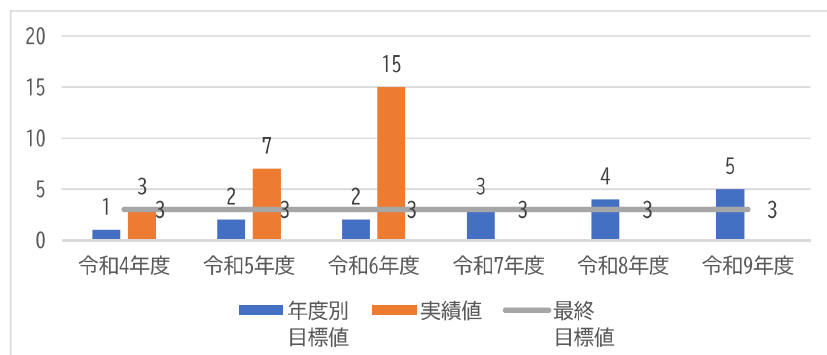
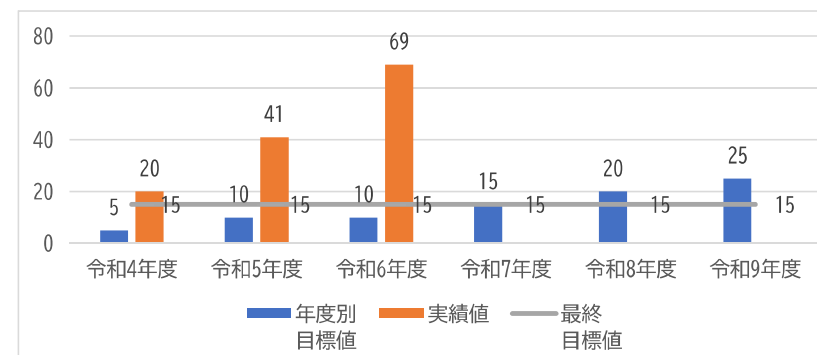
c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程し、いただいた提案・意見をR7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-2 地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題解決指向型共創プロジェクトの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)b. 地域課題解決指向型共創プロジェクトに参加した教職員数
(第4期中に新たにプロジェクトに参加した教職員数15人以上(延べ数))

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1-2 地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

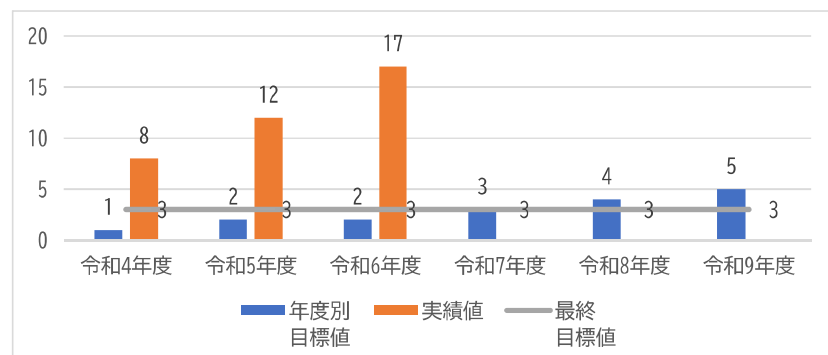
(令和6年度 実施内容)
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 1 社会との共創 (1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①
中期計画	1－3 SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定するとともに、活動経費の支援を行い、地域課題の解決に資する取組を推進する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学長戦略経費を用いて地域課題解決に繋がるSDGsの取組を後押しする「SDGs加速推進経費（地域課題解決型）」の学内公募制度を実施したこと、取組7件（新規5件、継続2件）を選考し財政支援を行ったことから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題の解決に資するSDGsの取組の実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)



b. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

①教職員・学生の取組み等について、随時Webで公開するとともに、SDGsアクションプランにおいて3つの重点領域とそれに繋がる推進課題・推進プロジェクトとして設定した事業について、令和6年度の取組内容及び令和7年度の実施計画をとりまとめ、こちらもWebにて公開している。

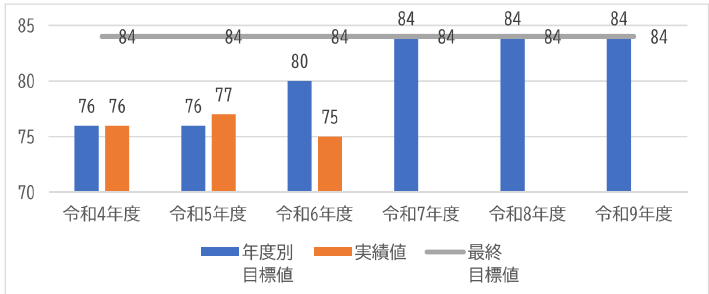
②上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

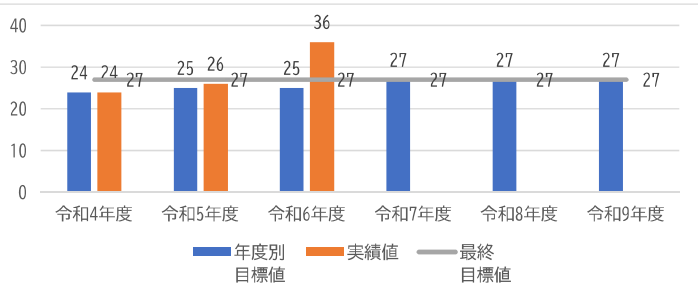
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1-1 特定の専攻分野はもとより、学士課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a：D科目の数は今年度の目標値を下回っている。R科目は最終的な目標値を超え、I科目は最終的な目標値に達している。 D科目の数を増加させるため、全学共通科目においては、すでに運用を始めているD科目（特に学生主導の課題探求型科目）の数を主題科目を中心に増加させるためFDプログラム（オンデマンド型）に、スタンダード版とアドバンス版の種類を作成し、幅広く受講を促すようにした（R7の主題科目担当者から利用開始）。また学部専門科目においては、今年度の試行状況を確認し、次年度の本格実施に向けて全学教務委員会を通じてDRI科目の増加を各学部にも強く促した。 b：7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、安定的・持続的な実施体制が整えられている。 ただし、受験率は少し下がっている部局があったので、次年度に新入生ガイダンスでの周知を徹底することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. D科目に係る授業科目数（令和9年度の科目数を令和4年度の科目数（76科目）と比べて10%増加）



a-2. R科目に係る授業科目数（令和9年度の科目数を令和4年度の科目数（24科目）と比べて10%増加）

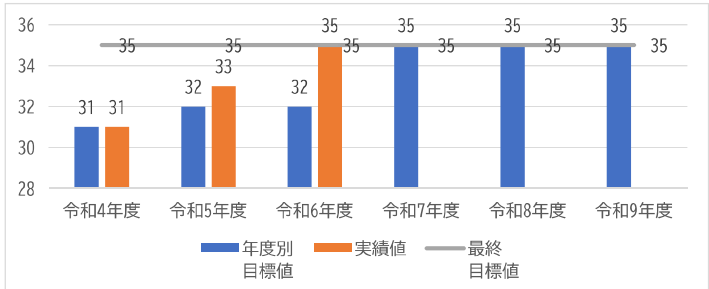


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学生課程)⑥
中期計画	1-1 特定の専攻分野はもとより、学生課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDRI(デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス(数理・情報基礎))教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅱ)計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a: D科目の数は今年度の目標値を下回っている。R科目は最終的な目標値を超え、I科目は最終的な目標値に達している。 D科目の数を増加させるため、全学共通科目においては、すでに運用を始めているD科目(特に学生主導の課題探求型科目)の数を主題科目を中心に増加させるためFDプログラム(オンデマンド型)に、スタンダード版とアドバンス版の種類を作成し、幅広く受講を促すようにした(R7の主題科目担当者から利用開始)。また学部専門科目においては、今年度の試行状況を確認し、次年度の本格実施に向けて全学教務委員会を通じてDRI科目の増加を各学部にも強く促した。 b: 7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、安定的・持続的な実施体制が整えられている。 ただし、受験率は少し下がっている部局があったので、次年度に新入生ガイダンスでの周知を徹底することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. I科目に係る授業科目数 (令和9年度の科目数を令和4年度の科目数(31科目)と比べて10%増加)



b. DRI教育のアセスメントテスト等を実施することにより、その学修成果を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については第3期中に作成したアセスメントテストを令和4年度から実施する。令和5年度にポートフォリオシステムに反映する。

(令和6年度 実施内容)

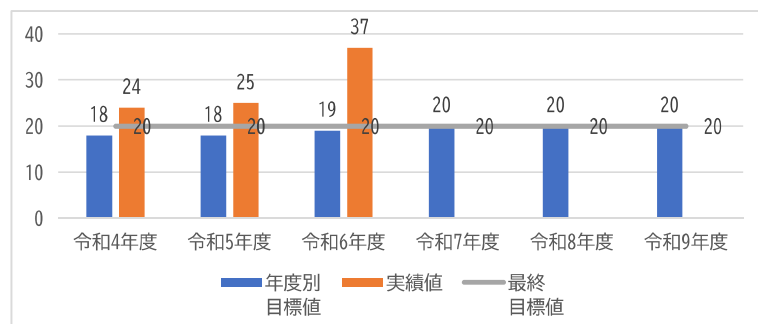
7月29日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行ったことが挙げられる。1年次生の受験率は85%と前年同様約9割を維持しており、安定的・持続的な実施体制が整えられているといえる。
リスクアセスメントのコンテンツに「化学物質のリスク」を加え、他にも現状に合わなくなったコンテンツの廃止などとあわせて検討を加えた。インフォマティクスについては、来年度より高等学校の科目「情報I」の必修化に対応するため、大幅改定を予定している。下半期に具体的な作業プランをたて、作業を進めている。
また、アセスメントテストの受験率向上のために、次年度の新入生ガイダンスでの周知を行う準備をする。
そのほか、新教務システム上での成果の可視化については、今年度後期からの運用を開始した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

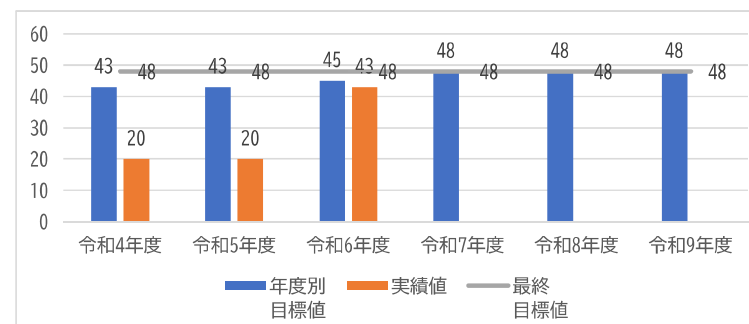
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1-2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。
令和6年度自己判定	(II) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	(1) 分野横断型科目は、最終的な目標値を大きく上回っている。実質的には分野横断型科目であるが可視化されていないものを減らすために、シラバス記載時に分野横断型科目についての自己診断をおこない、該当する場合はその旨シラバスに記載する、という仕組みを作った。 (2) 他学部履修科目登録者数は、前年度と比較すると倍増したものの、目標値に届かなかった。昨年度の全学教務委員会における合意に基づき、各学部が全学共通科目高度教養教育科目で学部提供科目として提供可能なものをリストアップしている。次年度より、学部提供科目が大幅に増える予定である。これに合わせて、この科目の履修を促すパンフレット、動画を作成し、当該科目の履修手続き方法を簡略化することを決定した。 (3) ネクストプログラム履修登録者数は目標値を大幅に上回っている。今年度は、前年度の調査を踏まえて、ガイダンスの方法を対面形式へと変更した。また、新規プログラムとして「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育特別プログラム」を開設し、次年度より「グローバル人材育成プログラム(韓国語)」の開設することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 異なる分野について学ぶ分野横断型授業科目の授業科目数(令和9年度実績を令和3年度実績(18科目)と比べて10%増加)



a-2. 異なる分野について学ぶ他学部履修科目の履修登録者数(高度教養教育科目を含む)(令和9年度実績を令和3年度実績(43人)と比べて10%増加)

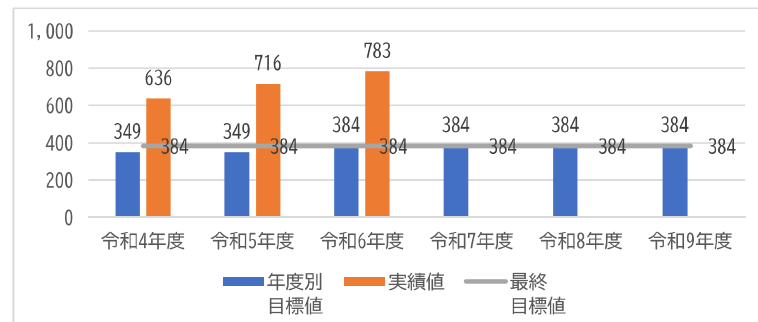


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥
中期計画	1-2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。
令和6年度自己判定	(II) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	(1) 分野横断型科目は、最終的な目標値を大きく上回っている。実質的には分野横断型科目であるが可視化されていないものを減らすために、シラバス記載時に分野横断型科目についての自己診断をおこない、該当する場合はその旨シラバスに記載する、という仕組みを作った。 (2) 他学部履修科目登録者数は、前年度と比較すると倍増したものの、目標値に届かなかった。昨年度の全学教務委員会における合意に基づき、各学部が全学共通科目高度教養教育科目で学部提供科目として提供可能なものをリストアップしている。次年度より、学部提供科目が大幅に増える予定である。これに合わせて、この科目の履修を促すパンフレット、動画を作成し、当該科目の履修手続き方法を簡略化することを決定した。 (3) ネクストプログラム履修登録者数は目標値を大幅に上回っている。今年度は、前年度の調査を踏まえて、ガイダンスの方法を対面形式へと変更した。また、新規プログラムとして「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育特別プログラム」を開設し、次年度より「グローバル人材育成プログラム(韓国語)」の開設することを決定した。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 異なる分野について学ぶ副専攻型特別教育プログラム(ネクストプログラム)の履修登録者数(令和9年度実績を令和3年度実績(349人)と比べて10%増加)

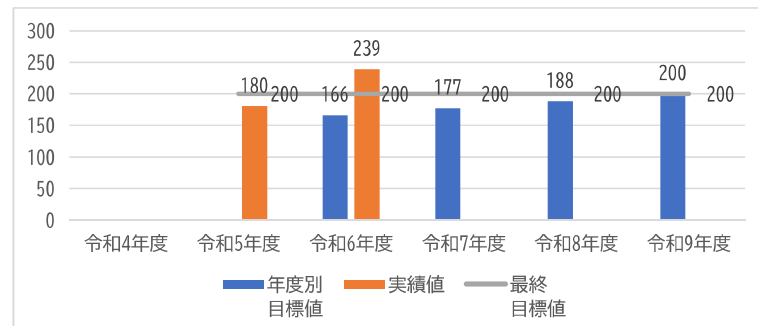


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画	2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。
令和6年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	※aについては令和6年度より評価指標変更 令和6年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、令和6年9月27日および令和7年3月11日に、それぞれ学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ9名（創発科学研究科6名、医学系研究科1名、教育学研究科2名）、および32名（創発科学研究科19名、医学系研究科1名、農学研究科9名、地域マネジメント研究科1名、工学研究科2名）の大学院生に対し表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。

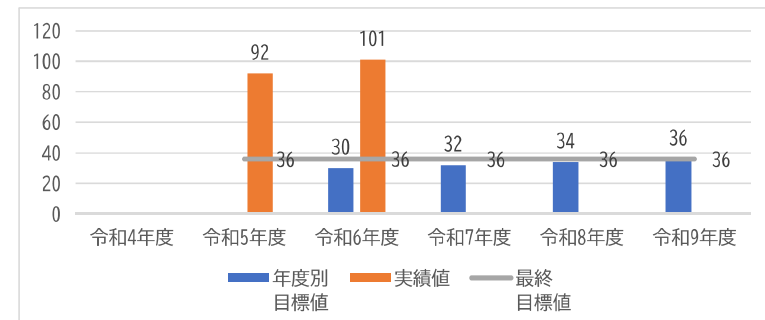
(参考) 評価指標達成状況

a-1. 修士課程学生の全国学会での発表数
(令和9年度実績を令和2年度実績(133回)と比べて50%増加。)



※令和6年度より評価指標変更

a-2. 修士課程学生の国際学会での発表数
(令和9年度実績を令和2年度実績(24回)と比べて50%増加。)



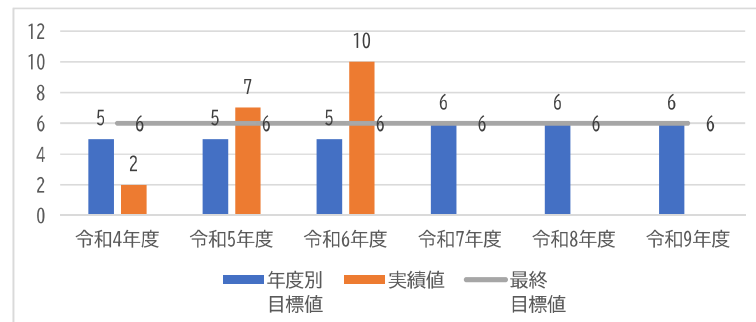
※令和6年度より評価指標変更

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦
中期計画	2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。
令和6年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	※aについては令和6年度より評価指標変更 令和6年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、令和6年9月27日および令和7年3月11日に、それぞれ学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ9名（創発科学研究科6名、医学系研究科1名、教育学研究科2名）、および32名（創発科学研究科19名、医学系研究科1名、農学研究科9名、地域マネジメント研究科1名、工学研究科2名）の大学院生に対し表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

b. 博士課程進学者数（令和9年度実績（令和9年度修士課程修了者の令和10年4月博士課程進学者数）を令和2年度実績（令和2年度修士課程修了者の令和3年4月博士課程進学者数：5名）と比べて20%増加）

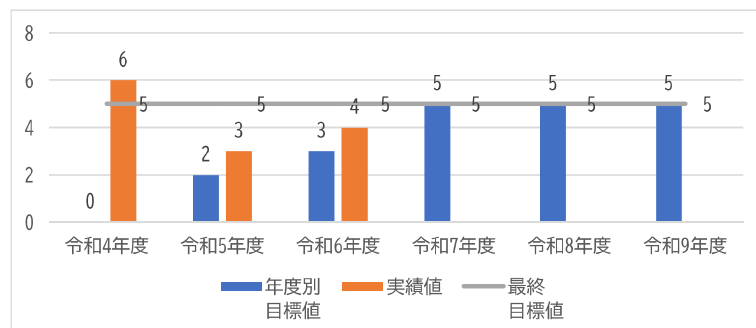


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画	2-2 修士課程におけるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a: 4件の応募があり、目標値を上回る結果となった。創発科学研究科・共通科目の「創発の実践」に関しては、3月26日に学外から授業の実施協力者を交えた意見交換会を開催し、学外協力者との連携や授業終了後のフォローアップ体制の構築等についての助言をいただいた。いただいた助言を踏まえつつ、授業内容の改善および支援体制の整備を図っていくこととする。 b. 47名の受験者があり、受験者数の増加を図ることができた。周知上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行う。

(参考) 評価指標達成状況

a. ビジネスモデル提案型や政策プラン提言型のコンペティション等への応募件数（令和9年度実績で5件以上）



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画	2-2 修士課程におけるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（数理・情報基礎））教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a: 4件の応募があり、目標値を上回る結果となった。創発科学研究科・共通科目の「創発の実践」に関しては、3月26日に学外から授業の実施協力者を交えた意見交換会を開催し、学外協力者との連携や授業終了後のフォローアップ体制の構築等についての助言をいただいた。いただいた助言を踏まえつつ、授業内容の改善および支援体制の整備を図っていくこととする。 b. 47名の受験者があり、受験者数の増加を図ることができた。周知上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行う。

(参考) 評価指標達成状況

b. アンケート調査やアセスメントテスト等を実施し、高度な実践的能力の基盤となるDRI能力を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については令和4年度に作成したアセスメントテストを令和5年度から実施する。

(令和6年度 実施内容)

本年度は、創発科学研究科以外の研究科にも受験を呼び掛け、農学研究科、教育学研究科、地域マネジメント研究科を含めて合計47人がアセスメント（DRI検定）を受験した。その結果、「デザイン思考」29人、「リスクマネジメント」33人、「インフォマティクス」30人が合格水準をクリアした。平均得点、合格率とも、大学院生のほうが学部生を上回っていた。

昨年度より受験者数は増加したが、さらなるデータの蓄積は不可欠である。受験者の獲得においては周知活動上の課題も確認できたため、R7年度には、新入生ガイダンス時などのより早い時期から周知活動を行い、受験者の増加を目指す。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-1 教育学研究科では、「令和の日本型学校教育」に資する次世代の教員を育成するために、学校教育現場との連携を一層深め、①学校マネジメントに関する資質・能力の強化、②多様化する幼児・児童・生徒に対応した個別最適な学びを実現する指導力の強化に重点を置いた、授業やカリキュラムの改善に取り組む。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①各コースにおいて授業改善およびカリキュラム改善が実施され、その成果の検証が行われている。学校力開発コースでは、香川県教員等人材育成方針との関連を示したシラバスを作成し、前期、後期ともに授業改善が実施され、その成果がアンケートによって確認された。授業力開発コースでは、新たな資質・能力分類表にもとづいてカリキュラム改善が実施され、その成果が意見交流会によって確認されるとともに、授業公開FDも活用して授業改善が実施された。特別支援力開発コースでは、自立活動の支援に関する授業内容の改善や実習充実のための環境整備が実施されており、その成果がアンケートによって確認された。 ②新たな資質・能力分類表を確定するとともに、この分類表に基づいて「履修カルテ①+履修カルテ②」を作成し、試行的に実施するとともにアンケートを実施した。今後は、その結果を手がかりに「履修カルテ」の精度を高め、実施方法を改善して行く予定である。

(参考) 評価指標達成状況

a. 「令和の日本型学校教育」に求められる資質・能力の分類表を作成し、それに基づく授業やカリキュラムの改善及び履修カルテの作成を令和6年度までに実施する。

(令和6年度 実施内容)

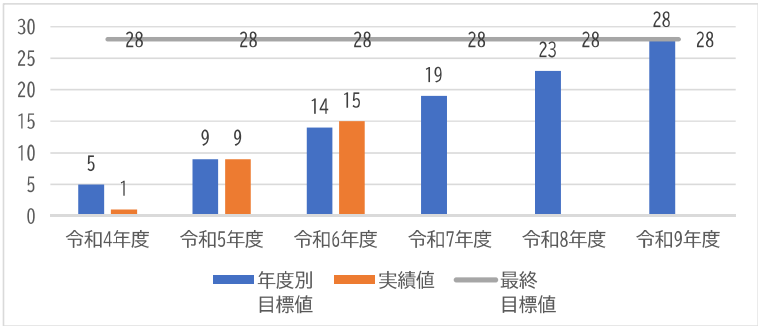
①学校力開発コースでは、香川県教員等人材育成方針との関連を示したシラバス(資料1、資料2、資料3)を作成するとともに、受講者に対して授業改善アンケート(資料4、資料5、資料6)を実施し、その結果をまとめた(資料7、資料8)。授業力開発コースでは、カリキュラム改善(資料9)を行い、令和6年度より新規に取り組んでいる授業科目の成果に関してアンケートを実施するとともに、アンケートの結果について新たな資質・能力分類表にもとづいて担当教員での意見交流会を実施した(資料10)。加えて、これまでの授業についても、授業公開FDを実施して、他の教員からの意見や院生からの授業評価をもとに改善を図った。特別支援力開発コースでは、文部科学省通知による特別支援教育の最新の動向と、新たな資質・能力分類表に基づき、自立活動の指導に関する授業内容の改善、及び実習充実のための環境整備を実施する(資料11)とともに、アンケートを実施し(資料12)、その結果をまとめた(資料13)。
②新たな資質・能力分類表(資料14)を確定し、この分類表に基づいた学部卒院生用および現職教員院生用の「履修カルテ①+履修カルテ②」(資料15)を作成し、試行的に実施するとともに、「履修カルテ」アンケートを実施した(資料16)。今後はこのアンケート結果を手がかりに、「履修カルテ」の精度を高めていく予定である。

令和6年度 自己点検・評価結果について

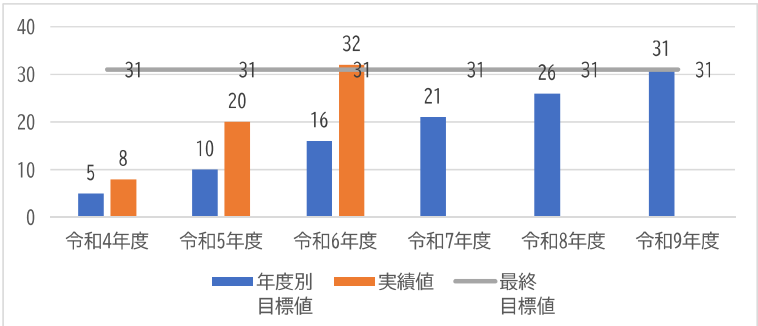
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 新規開設等した授業科目数(第4期の総数を第3期実績(27科目)と比べて増加)



a-2. 新規開設等した教育プログラム数(第4期の総数を第3期実績(30件)と比べて増加)

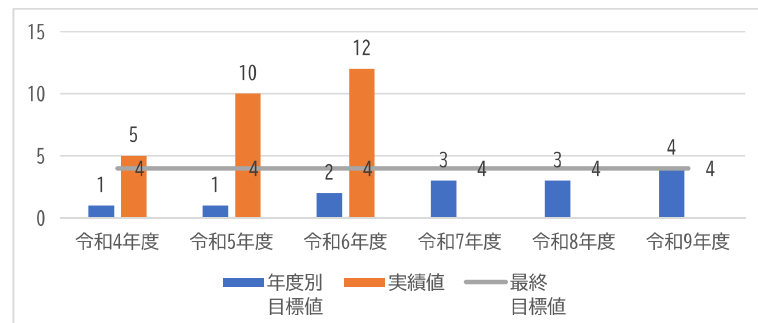


令和6年度 自己点検・評価結果について

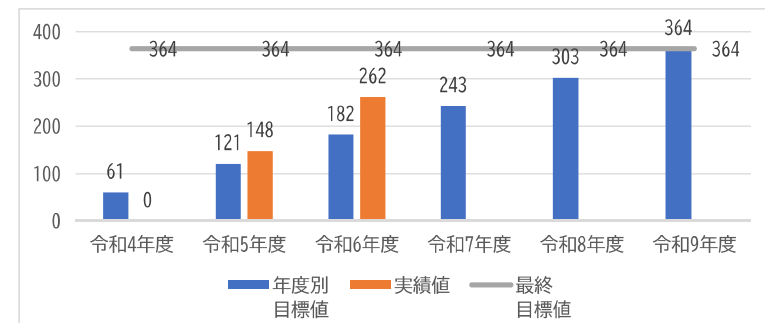
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 新規開設等した実践的なテーマのプロジェクト研究数 (第4期の総数を第3期実績(3件)と比べて増加)



b-1. 新規開設等した授業科目の受講者数 (第4期の総数を第3期実績(363名)と比べて増加)

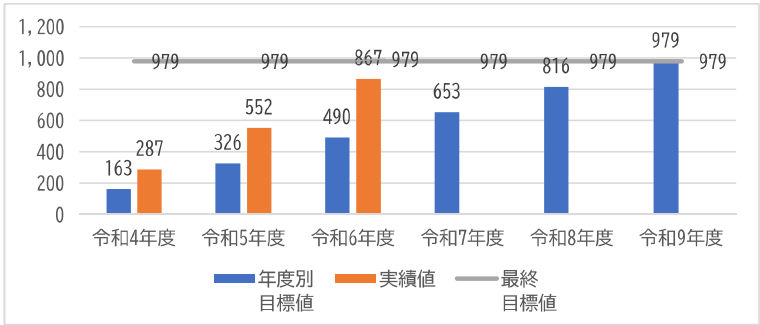


令和6年度 自己点検・評価結果について

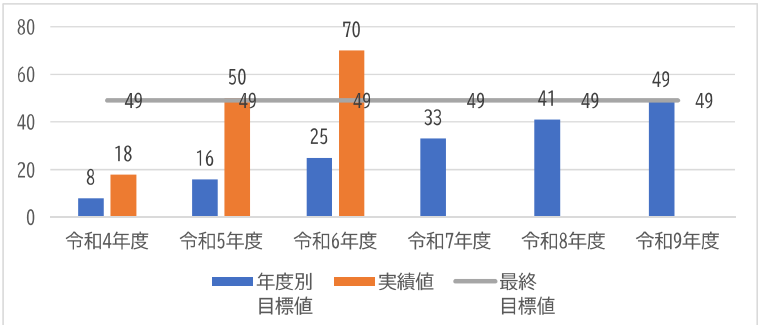
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

b-2. 新規開設等した教育プログラムの受講者数
(第4期の総数を第3期実績(978名)と比べて増加)



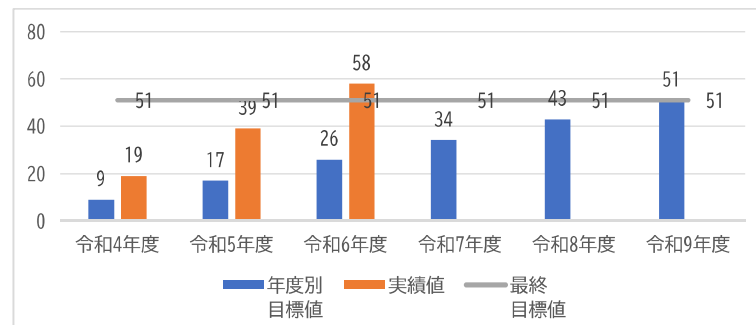
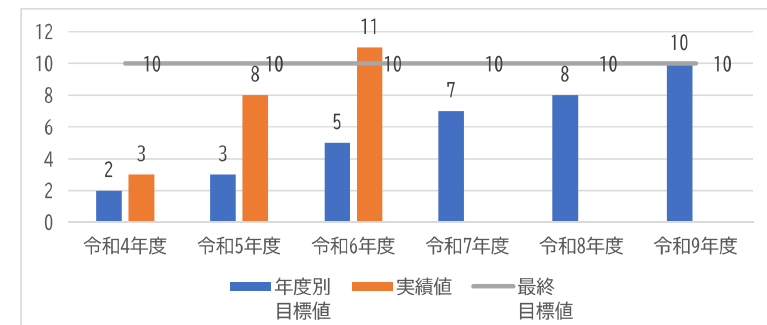
b-3. 新規開設等した教育プログラムの連携協力企業・行政等の組織数
(第4期の総数を第3期実績(48件)と比べて増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

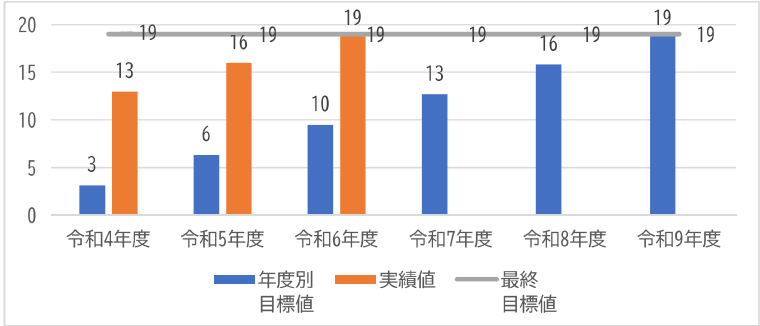
c-1. 修了生の取組に対する支援の数
(第4期の総数を第3期実績(50件)と比べて増加)c-2. 修了生による講義数
(第4期の総数を第3期実績(9件)と比べて増加)

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨
中期計画	3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	評価指標全体(a～d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 ただし新規授業科目については、令和5年に受審した経営系専門職大学院認証評価の結果、本学でのDRI教育の推進、数年続く専任教員の定年退職等を前提に、検討を継続しており、今後、より具体的な検討に注力していく。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、リカレント専門講座やその他公開講座の実施、また修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容に修正を加え、新規授業科目化を模索しながら、新規の教育プログラムを創出していく。 最終的には、香川大学としてのリカレント教育の在り方の定義に貢献し、その実施体制をより安定的で強固なものにしていくことに貢献する。

(参考) 評価指標達成状況

d. 実現した新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数（第4期の総数を第3期実績（新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数18）と比べて増加）

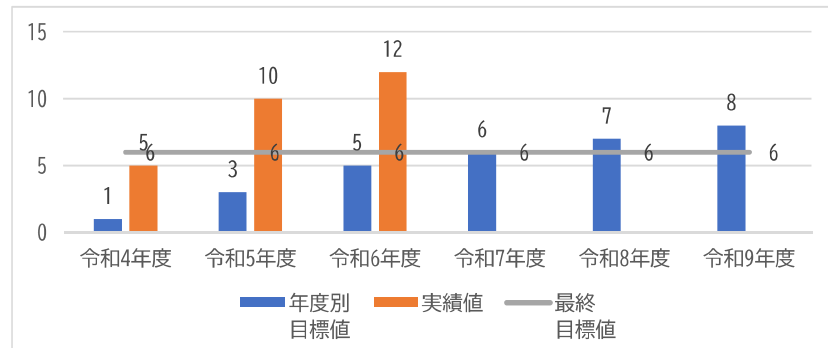


令和6年度 自己点検・評価結果について

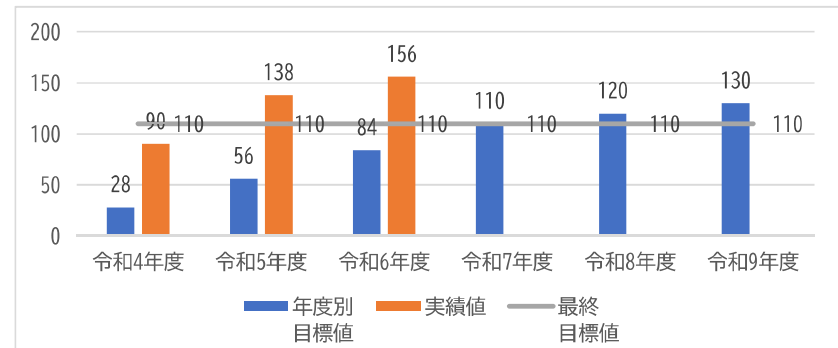
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。⑪
中期計画	4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に応えるため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	新規の専門リカレント講座を2つ実施したこと、受講者総数は延べ156名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数6件以上)



b. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの受講者数
(第4期中に新たに実施したプログラムの受講者数110人以上(延べ数))



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。⑪
中期計画	4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に応えるため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	新規の専門リカレント講座を2つ実施したこと、受講者総数は延べ156名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、「(Ⅲ) 計画を実施している」と評価した。

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R7年度の計画に反映させる。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。令和4年度以降、3年間の実施により、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を顕在化することができた。学生の回答率が低下しているため、高めていく検討をするとともに、より活動の効果を測定できるように調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。 調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした学生・教職員が3年間を通して明確に上昇傾向にあり、今年度の調査では、肯定的回答が学生74%、教職員59%に達した。これは、D&Iフェスタの開催、D&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介などの啓発活動の効果が表れた結果と考える。 教育面では、D&I関連科目として今年度も全学共通科目で2科目開講し、延べ143名の学生が受講したが、今年度、全学生が全学共通科目において「D&I」について学ぶ機会を持てるような仕組みを構築したことにより、今後より多くの学生がD&Iに関する教育を受けることができる。 また、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図るため導入した「D&Iマスター制度」では、19名の学生・教職員が修了した。これらの取り組みにより、学生が多様性を理解し、多様な社会で活躍できるスキルを身につけることが期待できる。 制度面では、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備し、また、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一するなど環境整備にも取り組んだ。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度にダイバーシティ推進のためのガイドライン及び活動計画を策定するとともに、令和5年度から活動計画の進捗状況を外部の有識者により検証し、検証結果に基づく改善状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

D&I活動計画に基づき、バリアフリー支援室、留学生センター、保健管理センター、関係する部署等と連携し、さまざまな施策を実施した。具体的には、6月に実施した「D&Iに関する全学調査Vol.3」の調査結果をもとに課題を抽出し、それをD&I活動計画に反映させ、改善に向けた取り組みを行った。

調査結果では、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)に気づいていない事例が多く見受けられたため、今年度は「アンコンシャスバイアス」をテーマに教職員に対して研修を実施した。

また、今年度も前年度同様、D&I関連科目として、全学共通科目で2科目開講するなど、D&Iについて学生に学ぶ機会を提供した。これにより、延べ143名(昨年度178名)の学生が受講した。

さらに、性の多様性を尊重するため、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備した。併せて、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。令和4年度以降、3年間の実施により、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を顕在化することができた。学生の回答率が低下しているため、高めていく検討をするとともに、より活動の効果を測定できるように調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。 調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした学生・教職員が3年間を通して明確に上昇傾向にあり、今年度の調査では、肯定的回答が学生74%、教職員59%に達した。これは、D&Iフェスタの開催、D&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介などの啓発活動の効果が表れた結果と考える。 教育面では、D&I関連科目として今年度も全学共通科目で2科目開講し、延べ143名の学生が受講したが、今年度、全学生が全学共通科目において「D&I」について学ぶ機会を持てるような仕組みを構築したことにより、今後より多くの学生がD&Iに関する教育を受けることができる。 また、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図るため導入した「D&Iマスター制度」では、19名の学生・教職員が修了した。これらの取り組みにより、学生が多様性を理解し、多様な社会で活躍できるスキルを身につけることが期待できる。 制度面では、従来の通称使用に加え、学生が自認する性別を使用できるように要項を整備し、また、全キャンパスの多目的トイレのサインを性の多様性に配慮したサインに統一するなど環境整備にも取り組んだ。

(参考) 評価指標達成状況

b. 教職員や学生に対するダイバーシティへの理解度や活動の効果を測定するアンケート調査を毎年実施し、アンケート結果及び結果に基づく改善状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

D&Iに関する全学調査vol.3を実施した。3年間の実施を通じて、香川大学のD&Iに関する傾向と課題を明確にすることができた。学生の回答率が低下傾向にあるため、今後は学生の回答率を向上させるための方策を検討するとともに、より効果的に成果を測定できるよう、調査項目の内容について量的・質的両面から再検討を行う。

調査項目「多様性を尊重した大学運営」について尋ねる設問では、肯定的な回答をした構成員が3年間を通して明確に増加傾向にあり、今年度の調査では、学生74%、教職員59%が肯定的な回答をした。これは、D&Iフェスタの開催やD&I関連科目の開講、D&I推進ムーブメントの紹介など、啓発活動の効果が表れた結果と考える。

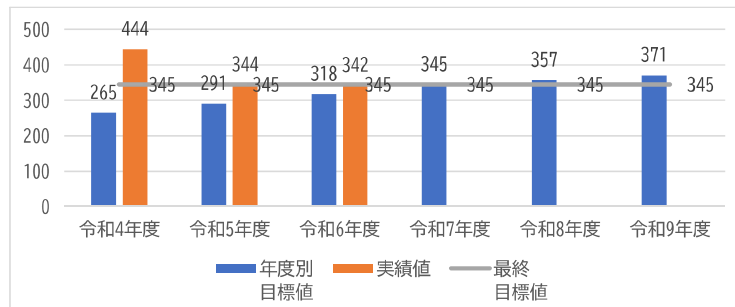
さらに、今年度から全構成員を対象としたD&Iに関する理解度や認知度の向上を図る「D&Iマスター制度」を導入し、初年度は19名の学生・教職員が修了した。現在活動中の学生プロジェクトメンバーに加え、マスター修了の学生にも、学生の視点でD&Iにおける諸問題を考えたり、D&Iフェスタの企画・広報活動に関与してもらうことで、学生の意識向上をさらに進めていく。

令和6年度 自己点検・評価結果について

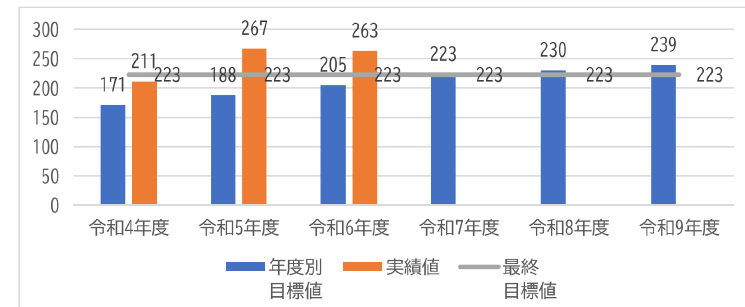
中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	8月にはチェンマイ大学にて本学・チェンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面での開催で、68名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後の展開に大きな期待ができるものとなった。 インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、「かがわグローバル人材共創事業「グローバル・スタートアップ海外研修プログラム」」（旧トビタテ！留学JAPAN（地域人材コース））の公募を再開させ、本学の学生を派遣した。 円安の影響や航空券の高騰の影響は避けられないが、今後も派遣支援の充実を諮り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をするものである。 コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。 BEVIテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 受入留学生数（令和9年度末実績を第3期平均265名と比べて30%増加）



a-2. 派遣日本人学生数、海外研修・海外インターンシップ参加学生数（令和9年度末実績を第3期平均171名と比べて30%増加）

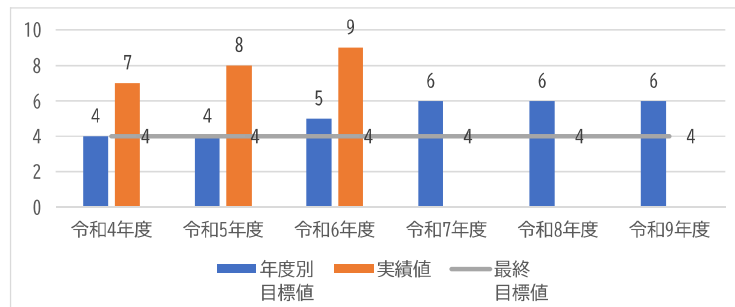


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	8月にはチェンマイ大学にて本学・チェンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面での開催で、68名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後の展開に大きな期待ができるものとなった。 インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、「かがわグローバル人材共創事業「グローバル・スタートアップ海外研修プログラム」」（旧トビタテ！留学JAPAN（地域人材コース）」の公募を再開させ、本学の学生を派遣した。 円安の影響や航空券の高騰の影響は避けられないが、今後も派遣支援の充実を諮り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をするものである。 コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。 BEVIテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。

(参考) 評価指標達成状況

b. 地域のステークホルダーと大学とが連携して実施するグローバル教育プログラム数（令和9年度末実績を令和3年度末実績3件と比べて30%増加）



c. グローバルな視点からの学生の多様性の理解、交流活動等による理解の変化及び行動変容を評価する仕組みを構築する。

(令和6年度 実施内容)

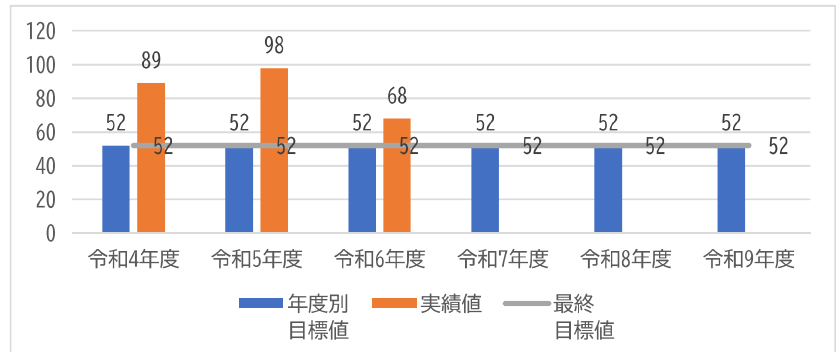
JASSO採択協定派遣「がいのな」人材育成プログラムの海外派遣学生4名、STUDY ABROAD（西オーストラリア大学 8名、ブルネイダルサラーム大学3名）、マレーシア・多文化体験プログラム8名の派遣学生にBEVIテストを実施した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

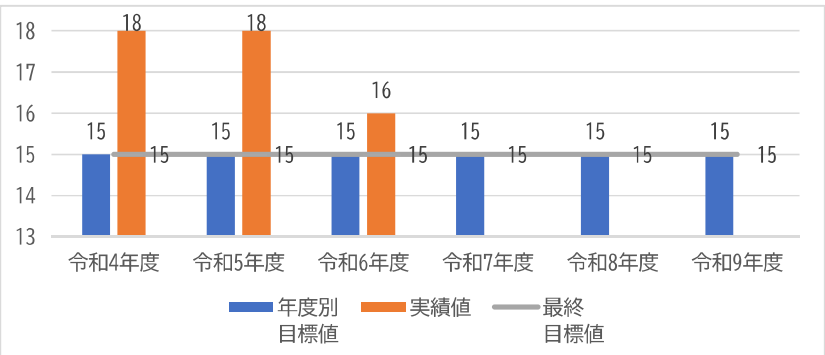
中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1-1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。

(参考) 評価指標達成状況

a. 重点研究の査読付き論文数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)



b. 知的財産(研究成果有体物(マテリアル)を含む)の実施許諾等収入に係る契約件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)

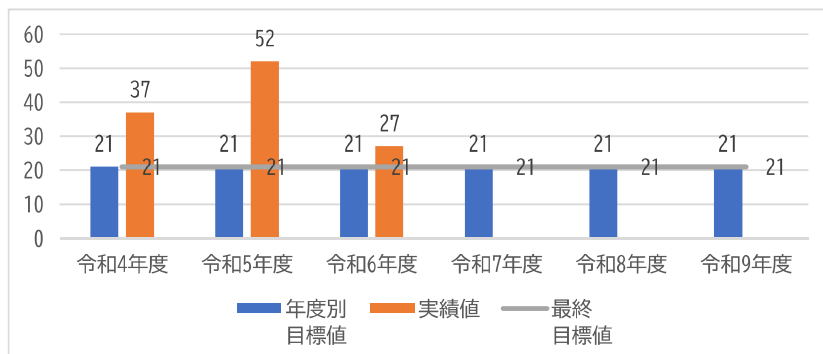


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1-1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。

(参考) 評価指標達成状況

c. 招待講演数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)

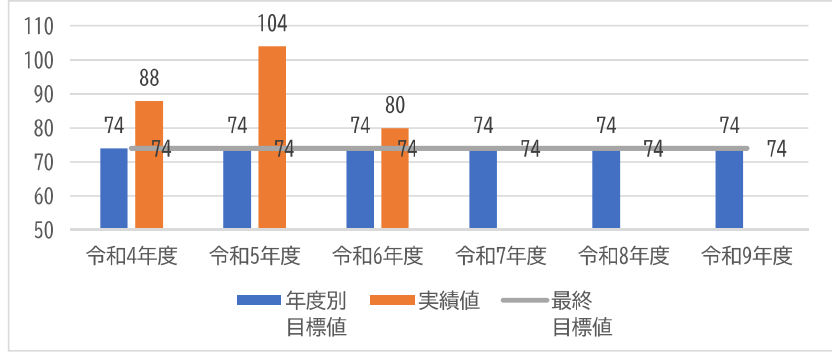


令和6年度 自己点検・評価結果について

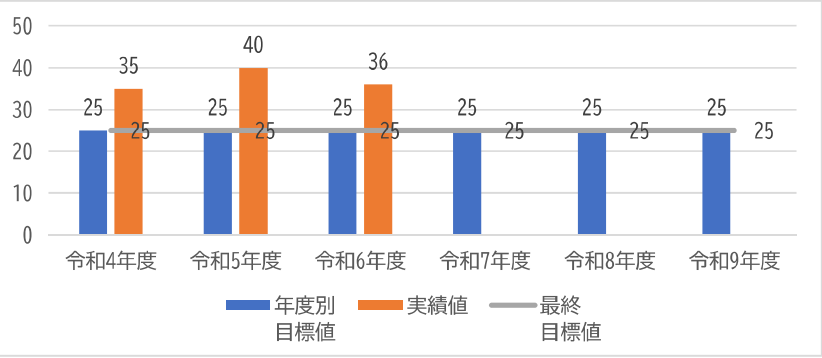
中期目標	3 研究 （1）真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1－2 地域コミュニティの回復力強化（社会的レジリエンス）、瀬戸内圏の環境・資源、包括的健康イノベーションの創出、資源ゲノム、MaaS（Mobility as a Service）等、継続的なデータ収集に基づく特色ある研究などの、地域社会の課題の解決や資源の持続的な活用に資する研究を推進する。
令和6年度自己判定	（Ⅲ）計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標値を上回る業績を上げており、順調に計画を遂行していると認められる。

（参考）評価指標達成状況

a. 地域社会を対象とした研究の査読付き論文数 （第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）



b. 継続的に収集したデータに基づく学術的成果（査読付き論文、書籍等）の数 （第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）

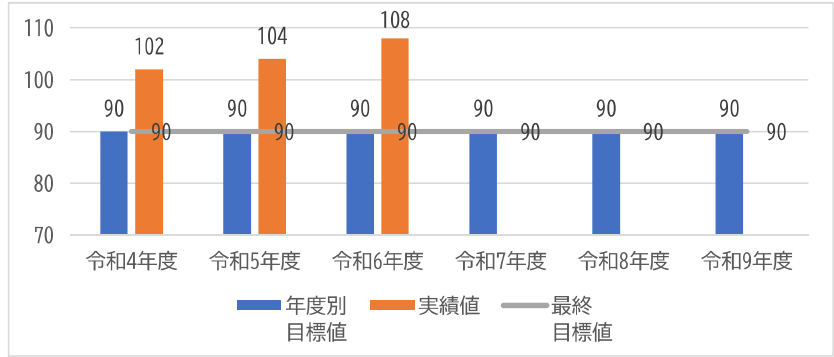


令和6年度 自己点検・評価結果について

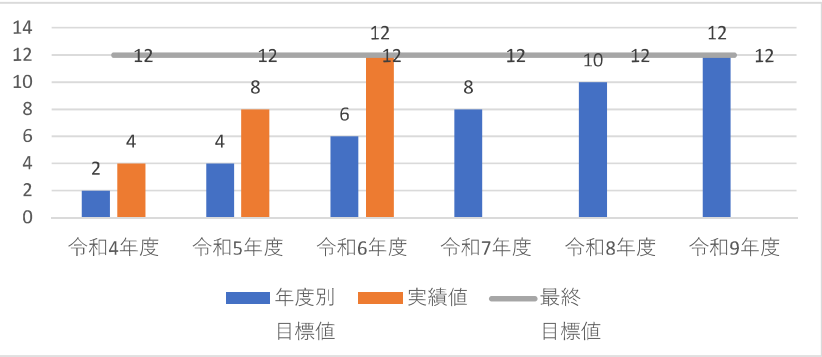
中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1－3 分散キャンパスにある研究資源の有効活用と研究の多様化を推進するため、デジタルONE戦略※に基づき、研究設備・機器の共用、研究者のマッチング、研究成果の発信等のシステムを構築し、研究機能を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	計画どおり事業を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 全学の機器共用ネットワークシステムに登録された研究設備・機器の件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて20%増加)



b. マッチングシステムによる研究連携の実施数 (第4期中に合計12件以上)

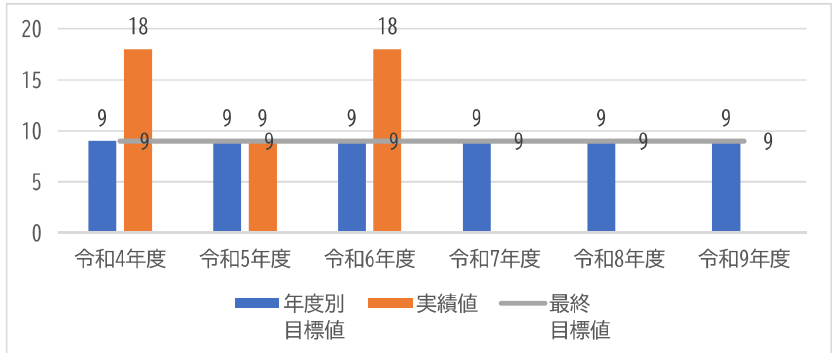


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	3 研究 (2) 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮
中期計画	2-1 未来社会を想定したイノベーションの創出に向け、分野を超えた多様な研究者から構成される研究チームを編成し、産官学の連携によって、社会の課題解決や社会実装につながる研究開発を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	計画どおり事業を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の研究チーム数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)



b. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の共同研究・受託研究契約数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)

